

# やまと 民俗への招待

鹿谷 熱

真柱一本で屋根を支える傘堂のような建物を「傘型建造物」と私は呼んでいる。当麻の傘堂と同じ構造ではないが、天理市柳本町に長岳寺五智堂(重要文化財)がある。奈良から三輪を経て、初瀬に至る上街道(初瀬街道)と長岳寺門前から西に延びる参詣道が交わる地点に建っている。

方一間、宝形造りの小堂であるが、重厚な雰囲気が漂う。周囲を吹き放しとして、中心に太い丸柱を立て、これを大日如来に見立て、その上部四方に金剛界四仏の梵字を刻んだ額を掲げ、併せて五智如来で、五智堂と呼ばれる。建築技法から鎌倉期のものとされる。

18世紀終わりの『大和名所図会』には「傘塔」とある。各地の名所図会や戯作などを書いた大坂の『和州柳本傘堂』と絵

天理市柳本町にある長岳寺五智堂(重要文化財)＝筆者提供



入で紹介している。

また、額を掲げた四方は釜ノ口長岳寺へ参詣する目印となつたであろう

ところから眞面堂(俗に「マメ堂」)とも呼ばれていた。人々が往来する

街道沿いにあった五智堂

大和国朝日の里(天理

市佐保庄)の川端九介と

いう百姓は、50歳過ぎま

した劇作家真山青果は、

『西鶴語彙考證』を著

した綿商人になつたという。

ついには大和に隠れなき

千石通し、後家倒し(千

歯扱き)、さらには唐弓(綿弓)なども作って、

ついには大和に隠れなき

に當麻の傘堂と同じ構

造の建物が建っている。

休憩施設の機能も果た

しながら、信仰の場への

導きの役割を果たしてい

たのはいずれも同じであ

## 参詣導く「傘型建造物」

(奈良民俗文化研究所代表) 次回は12月9日